

第28回

神戸須磨ライオンズクラブ旗 マック鈴木杯争奪少年少女野球大会

日時：令和5年11月 3日(金) 8時50分

場所：G7スタジアム神戸

決勝戦：令和5年12月17日(日)

場所：G7スタジアム神戸

***お願い内容について**

◎ 今大会の最終日が、上記に記載してます12月17日(日)で期間中日程変更についてご希望に添えない事がありますので、ご了承下さい。

主催 神戸須磨ライオンズクラブ
運営 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟
後援 神戸新聞社・デイリースポーツ
協賛 須磨区役所
オリックス野球クラブ株式会社
ナガセケンコー株式会社
株式会社アシックス
明石吹奏楽団

第28回神戸須磨ライオンズクラブ旗マック鈴木杯争奪少年少女野球大会 開会式次第

日 時 : 令和 5年11月 3日 (金) 8時50分～
場 所 : G7スタジアム神戸

1. 選手集合 午前 8時00分 グラウンド内
2. 開会宣言 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 理事長 藤原 健男
3. 国旗掲揚
4. 前年度 6年生優勝・準優勝・3位・4位、5年生優勝・準優勝チームによる
優勝旗・優勝杯・準優勝杯の返還並びにレプリカの授与

6年生の部
優勝：花谷少年野球部 準優勝：枝吉パワーズ
3位：千鳥が丘少年団野球部 4位：会下山少年野球部
5年生の部
優勝：白川横尾連合 準優勝：枝吉パワーズ
5. 挨拶
主催者挨拶 ○大会会長 安達 和彦
○神戸須磨ライオンズクラブ会長 西村 和洋
○ マック鈴木
○西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 会 長 志賀 久高

来賓挨拶 ○須磨区総務部 部 長 林 秀和
○オリックス野球クラブ
6. 審判長訓示 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 審判部長 光辻 慎二
7. 選手宣誓 宮川少年野球部 主 将 坂本 蓮稀
8. 閉会の言葉 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 副会長 綿貫 功一
9. 選手退場

第28回神戸須磨ライオンズクラブ旗マック鈴木杯争奪少年少女野球大会規則

- ① この大会の競技規則は当該年度「公認野球規則」及び「全日本軟式野球連盟競技者必携・学童野球の関する事項及び下記細則により試合を行う。大会特別規定を設け、その規定を優先とする。
- ② 試合は6回とし、80分を超えれば新しいイニングには入らない(時間制を採用する)決められた回数、時間が経過して勝負が決着しない場合は、抽選とする。
- ③ 決勝戦は6回とし、80分を超えれば新しいイニングには入らない。時間を超えて同点の場合は決勝戦のみ監督選択による1アウト満塁のタイブレークを1イニングのみし、それでも同点時は抽選とする。
- ④ ベンチにはチーム責任者1名、監督1名、コーチ2名、スコアラーとし最大5名までとする。監督・コーチはユニフォーム(30・29・28番)を着用それ以外はユニフォーム着用は認めない
- ⑤ ベンチは組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。但し、試合会場を提供したチームは、1塁側もしくは3塁側を選択できることとする。
- ⑥ 大会試合球は連盟公認J球でナガセケンコー球を使用する。
- ⑦ バットは、連盟公認(JSBB)のみ使用できる。(木製も可能とする)
- ⑧ 捕手は必ず連盟公認のマスク、レガース、プロテクター、ヘルメット、ファルカップを着用すること。
- ⑨ 打者、走者、ベースコーチ、次打者は必ずヘルメットを着用すること。
- ⑩ 6年、5年ともボークは最初から適用する
- ⑪ 投手が投球姿勢に入った際には、ベンチから(選手、指導者を問わずグラウンド 内および隣接する応援エリアを含む)投球を妨げるような声援は禁止する。
- ⑫ 監督がタイムを求め、球審が認めたときは、時間短縮につとめ選手に指示を与える。選手交代も同様に時間短縮につとめなければならない。
なお、抗議できるのは監督のみとする。但しルールの確認行為のみとする。
どんな理由があろうと相手(自)チームのプレイヤー及び審判員に対し、悪口、暴言を吐くことを禁ずる。
* 攻撃(守備)の時間が長引いた時は、本部又は審判員の判断により休息タイムを設ける。
(休息タイムを本部が認めた時にタイマーを停止し、球審のプレイが宣告された時に再開される)
- ⑬ 試合におけるトラブルなどは球審または審判員の決定に従うこと。
- ⑭ **シートノックは4分間とする(準々決勝から行う)**
投球練習は、初回及び投手交代時は7球・その他は3球とする。
- ⑮ グラウンドで発生した負傷は、主催者では一切のその責任は持たない。
各チームで責任をもって対応すること。
- ⑯ 雨天の際の可否判断はそれぞれの担当役員から連絡するものとする。
- ⑰ 降雨、落雷等により試合を中止した場合、4回終了時で成立する。
(但し、日程等の理由で会長・理事長又は執行部の判断により、再試合とせず継続試合とする場合がある)
- ⑱ チームは試合開始時間の45分前に本部席にメンバー表4通(G7スタジアム神戸は5通)を提出し、先攻後攻のトスを行なう。(G7スタジアム神戸を使用するチームは、1時間前です)
- ⑲ 得点差によるコールドゲームを決勝戦を含み採用する(3回以上 10点差・5回以上 7点差)とする。
- ⑳ その他運営面におけるトラブル等は、本部役員または担当役員の決定に従う事。
- ㉑ 新型コロナウイルス感染防止対策を各チームにて徹底して行って下さい。
- ㉒ 投手の球数制限を70球とする。試合中に70球に達した場合はその打者の打撃が完了するまで認める。
牽制球、投球練習球は投球数には含まない。(ボークにもかかわらず投球したものは投球数に数える)
過失により制限された球数を超えた場合、その打者の打撃完了まで認める。尚、ペナルティーは無い。
【注】 投球数のカウントは本部が行う。チームがカウントした投球数と本部がカウントした投球数とに差異があったとしても、本部の投球数カウントが有効である。差異に対しての異議は唱えることは一切出来ない。但し、下記の時は、チームがカウントしていた、投球数を参考にして本部が投球数を確定する。
(1)当該試合で本部での集計が出来ない状態。
(2)試合中に本部での管理の不具合等により、投球数のカウントに支障がおきた場合。

《変化球に関する事項》

学童部の投手は、変化球を投げることを禁止する。

変化球を投げた場合は次のペナルティを課すこととする。

変化球を投げた場合とは、投球が審判員によって、変化球と判断された場合を言う。

〈ペナルティ〉

- (1) 変化球に対して”ボール”を宣告する。
- (2) 投手が変化球を投げた場合は、投げないように監督及び投手に厳重注意する。
注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときは、その投手を交代させる。なお、その投手は、他の守備位置につく事はできるが大会期間中、投手としては出場することは出来ない。
- (3) 変化球が投げられたときにプレイが続けられた場合は、打者が一塁でアウトになるか、走者が次塁に達するまでにアウトになった場合は、プレイを無効とし、打者のカウントに”ボール”を加える。
この場合、状況によっては攻撃側の監督の申し出があればプレイをそのまま有効とする。ただし打者が安打、失策、死球、その他で一塁に生き走者が進塁するか、占有塁にとどまっている場合は、変化球とは関係なくプレイは、そのまま続けられる。